

筑波市、CSJインドアテニスクラブ

静電気障害防止対策報告書

平成25年3月末日調査

[コート面の状態]

コート及び床面には、人工芝が敷き詰められ、その裏側（下面）はゴムシートが貼られた状態。建物鉄骨造、場内床面積：約36m×36=1296㎡

[静電気障害の内容]

プレーヤーの活動中、ネット用ワイヤー、建物の鉄骨部分、等ボールを拾う時や何気なく鉄類に触れた瞬間の放電衝撃、又、競技終了後の握手をする瞬間の衝撃、競技者同士、コート面にいる人同士の衝撃（パチッ）等冬季の乾燥時期に起きる現象が問題となっていた。

尚、新ボールの表面繊維が静電気によって膨れやすく毛羽立つ状態が激しく、その毛羽立ちの摩耗が早いためボールの消耗が激しく問題となっていた。

[障害防止処理方法]

水溶性静電気防止剤「アンチスタH」をコート全面に散布した。

散布量：20L缶4本使用、———61cc/㎡の噴霧と思われる。

施工日：平成24年12月20～24日

[効果と結果]

施工当初、今までの障害（パチッ）が無く想像以上の効果で驚愕していたらしい。

施工後、満3ヶ月経過時の使用でも問題は無い状態で今も問題はない。

ボールの毛羽立ちが少なく、消耗も少なくなった状態らしい。

[考察]

液体の性能は問題なく効果が出ているが、性能維持期間を考慮すると、今回の散布量では人工芝の根本まで達した量ではないと思われる、従ってプレー時の摩擦で成分が消耗し性能が徐々に落ちると考えられる、これは少し散布量を増して、年に1回は散布を行い3年行くと芝の根元に成分が蓄積されることで、4年目には散布不要になり、性能が永続する可能性があると考えられる。



CSJテニスクラブ



人工芝コート



ボールの毛羽立ち

株式会社ボロン研究所